



OK たよ

大西勝彦 活動報告 No.91

2023年1月
大府豊幸会
(事務局) 刈谷市宝町8-1
豊田自動織機組合会館est内



大府市議会議員
大西勝彦

議員定数削減案 否決！ 大府市議会議員選挙！

みなさん、こんにちは。大府市議会議員の大西勝彦です。12月議会が終わりました。この議会で、私たち市民クラブは、議員定数削減を提案しましたが、否決されました。また、今回も一般質問に立ち、市民の幸せの量を増やすための行政運営面からの提案をしました。その概要を報告します。



大西勝彦HP →



議員定数 削減

令和五年 新春

議員定数削減(19 → 18人 ▲1)議案を提出しました…！

私が所属する市民クラブ(会派)から、議員定数削減議案を提出しました。私たちは、12年前、議員定数が21の時から、18を目指して取り組んできました。毎年、話し合いに乗ってほしいと提案し続けてきましたが、残念ながら特別委員会や議会運営委員会で話し合われることはありませんでした。提案理由として、我が国が少子高齢社会と人口減少社会を迎え、さらに、現下では、長期化するコロナウイルス感染症や物価高騰により、市民の生活は大きな影響を受けている中、私たち議員ができる行財政改革の一つの方策として、議員定数削減を提案しました。

採決結果は、賛成5 反対13 で否決されました…！

【議員別の賛否】

賛否	議員名(議席番号順)
賛成○	小山昌子・大西勝彦・三宅佳典・野北孝治・木下久子
反対×	久永和枝・鷹羽富美子・藤本宗久・太田和利・酒井真二・鷹羽琴美・加古守 森山守・柴崎智子・国本礼子・山本正和・鷹羽登久子・宮下真悟

早川高光議員は、議長のため議決に加わらず。

大府市議会議員 選挙

今年4月に行われる大府市議会議員選挙に、**連合愛知**は、下記の4人を推せん決定しています。

のぎた たかはる
野北 孝治
54才
(現1期)
豊田自動織機
労組
擁立



加茂 やすはる 55才
(新人)
愛三工業労組 擁立



木下 ひさ子 52才
(現2期)
知多地協 推せん



小山 まさこ 45才
(現2期)
知多地協 推せん

12月議会のトピックス

大府市臨時特別出産祝金に、国の出産・子育て応援交付金を活用した、**子ども未来応援金を上乗せ支給**します。

- ・令和4年4月1日生まれ～12月31日生まれ → 大府市臨時特別出産祝金(10万円、支給済分も含む) + 遡及分(10万円)
- ・令和5年1月1日生まれ～4月1日生まれ → 大府市臨時特別出産祝金(10万円) + 子ども未来応援金(10万円)
- ・令和5年4月2日生まれ～ → 未定 (大府市臨時特別出産祝金制度が、R5.4.1生まれまでの制度のため)

※ 子ども未来応援金は、妊娠届出の時に5万円支給されます。詳しくは大府市公式ウェブサイト等でご確認下さい。

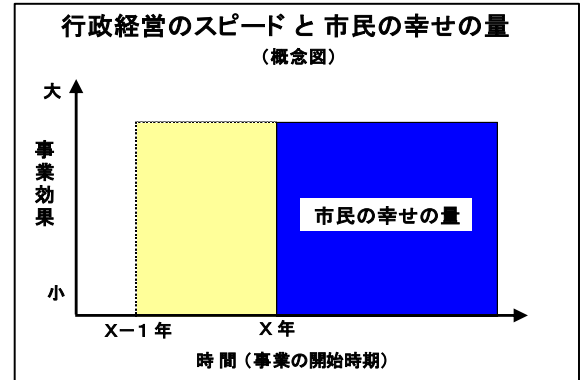
トップダウンとボトムアップのマネジメントを有効に機能させよう・・・

(大西)

私が、議員にさせていただいた時から変わらず訴えてきたことは、**行政のスピードを増せば、市民の幸せの量が増える**ということだ。同じ施策、事業を行うなら、一刻も早く行った方が市民の幸せの量が増える。つまり**行政のスピードアップ**だ。

岡村市長は、**卓越したリーダーシップ**の下、スピード感を持って市政運営に臨まれている。市民からも周りの自治体からも高い評価を受けている。特に、コロナ禍という危機にあっては、そのスピードと判断力は評価に値すると思う。危機の時こそ、**トップマネジメント**が重要で、**トップが優柔不断**では、市民が不幸になる。別の見方をすれば、**トップは危機の時に必要**であり、平時は仕組みで市政がしっかり回っていればいいのだ。このように、大府の市政運営においては、しっかりと**トップダウン**のマネジメントが機能しているが、**ボトムアップ**はどうなっているのか。トップダウンとボトムアップが、場面場面において**バランスよく機能**している組織が、健全な組織だと思う。但しボトムと言っても、新入社員のように経験がなく、右も左も分からない人のことを言っているのではなく、そういう若者や経験の浅い人だから見えてくる問題を吸い上げて、政策・施策に落とし込める立場の人、つまり市役所で言えば、課長・係長級の職員のことを言っている。

課長・係長級職員の考える政策・施策が実現できる仕組みは担保されているか、お聞きする。



(岡村 市長)

本市は、実施計画において「**知は、現場にある。**」という方針のもと、職員が地域に足を運び、現場で把握した課題とその解決策に係長級の職員が新規事業として提案する「**サマープレゼンテーション**」を平成28年度から導入している。また、国に規制緩和や権限移譲などの改善提案を行う**地方分権改革・提案募集方式**は、課長・係長級の職員から日頃の業務の中で生まれるアイデアを募っている。さらに、職員の研究力、提案力を育成し、ボトムアップの風土を醸成するため、係長級の職員がテーマを設定して先進都市を視察する「**先進都市視察研修**」や担当職員が常任委員会の行政視察に同行する「**行政視察実践研修**」などを実施している。今後も、**市民に最も身近な基礎自治体**として、**現場を知る職員**が新たな政策・施策を実現できる組織づくりを行っていく。

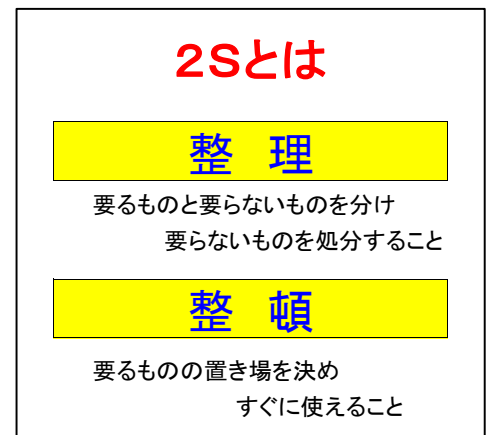
改善意識を持って、仕事を進めよう・・・

(大西)

2S(整理・整頓)活動についての質問は私が13回目、同僚の野北議員が1回行っている。業務改善においては、それほど大切なことなのだ。改めて申し上げる。2Sとは「整理・整頓」のことである。要るものと要らないものを分け、要らないものを処分することが「整理」であり、要るものの置き場を決め、すぐに使えることを「整頓」と言う。ただきちんと並べるだけなのは「整列」であって、職場の管理は「整理・整頓」でなければならない。つまり、**2Sは業務改善の入口**だ。市役所内で行われている2S(整理・整頓)活動は定着しているか。

(玉村 総務部長)

職員の2S意識の定着に向けて、年に2回の行政管理課職員による巡視及び指導や、年4回の各職員の2Sに関する**チェックシート**の記入を継続している。チェックシートでは、机やテーブルの上下、キャビネットや倉庫での書類・物品の保管状況及びペーパーレスの取組状況について計10項目でセルフチェックを行っている。今後も継続して2Sに関する周知啓発に努めるとともに、2Sに有効な新たな取組についても調査研究を行っていく。



行政評価制度が、形骸化していないか・・・

(大西)

私が市議会議員にさせていただいた平成15年、大府市ではすでに**行政評価制度**が運用されていた。決算審査時の**実績報告書**の事業の評価の欄に「**妥当性評価**」がある。そこには「市が実施すべき事業です」という言葉が並んでいる。「**見直すべき**」とか「**止めるべき**」という言葉は**皆無**だ。**評価が形骸化**しているように思える。行政評価制度とは行政の効率的な運営を目指した制度のはずが、職員の仕事量と負担を増やし、効率性を阻害しているという状況になっていないか。議会の位置付けも含めて行政評価制度の見直しの時期になっているのではないかと思う。誰のために、何のために行政評価が行われるのか、考えてみる必要があるのではないか。行政評価制度を見直す考えはあるか。

(新美 企画政策部長)

本市は、実施計画と予算編成において、事業の目的、時代的な背景、行政の関与の必要性、他の類似事業との重複などの視点で既存事業の必要性を**ゼロベース**で検証し、事業の選択と集中を図っている。特に**サンセット方式**の補助金・交付金などは、必ず政策調整会議で成果を検証し、その必要性を評価している。また、平成29年度からは、**大府市行財政改革委員会**による**第三者評価**を導入している。近年は、**既存事業の縮小・廃止**とともに新たな地域課題に対応する事業への評価をいただき、**スクラップ・アンド・ビルド**を推進している。今後も、既存の行政評価制度をレベルアップさせながら、市民の皆様に政策・施策・事業の目的を明確にした上で、行政としての説明責任を果たしていく。